

「低炭素社会に向けた12の方策」より

Low Carbon Energy

低炭素なエネルギーへ

- POINT 1** 太陽光発電や風力発電、原子力発電、効率の良い火力発電など、発電時のCO₂を抑えた電力が活用されています。
- POINT 2** 大量かつ多様なエネルギーをムダなく運ぶ電力ネットワークが普及しています。
- POINT 3** 発電時に発生するCO₂を集めて、地中や海洋に埋める技術であるCCS(炭素隔離貯留)が研究・開発され、CO₂の放出を抑えています。

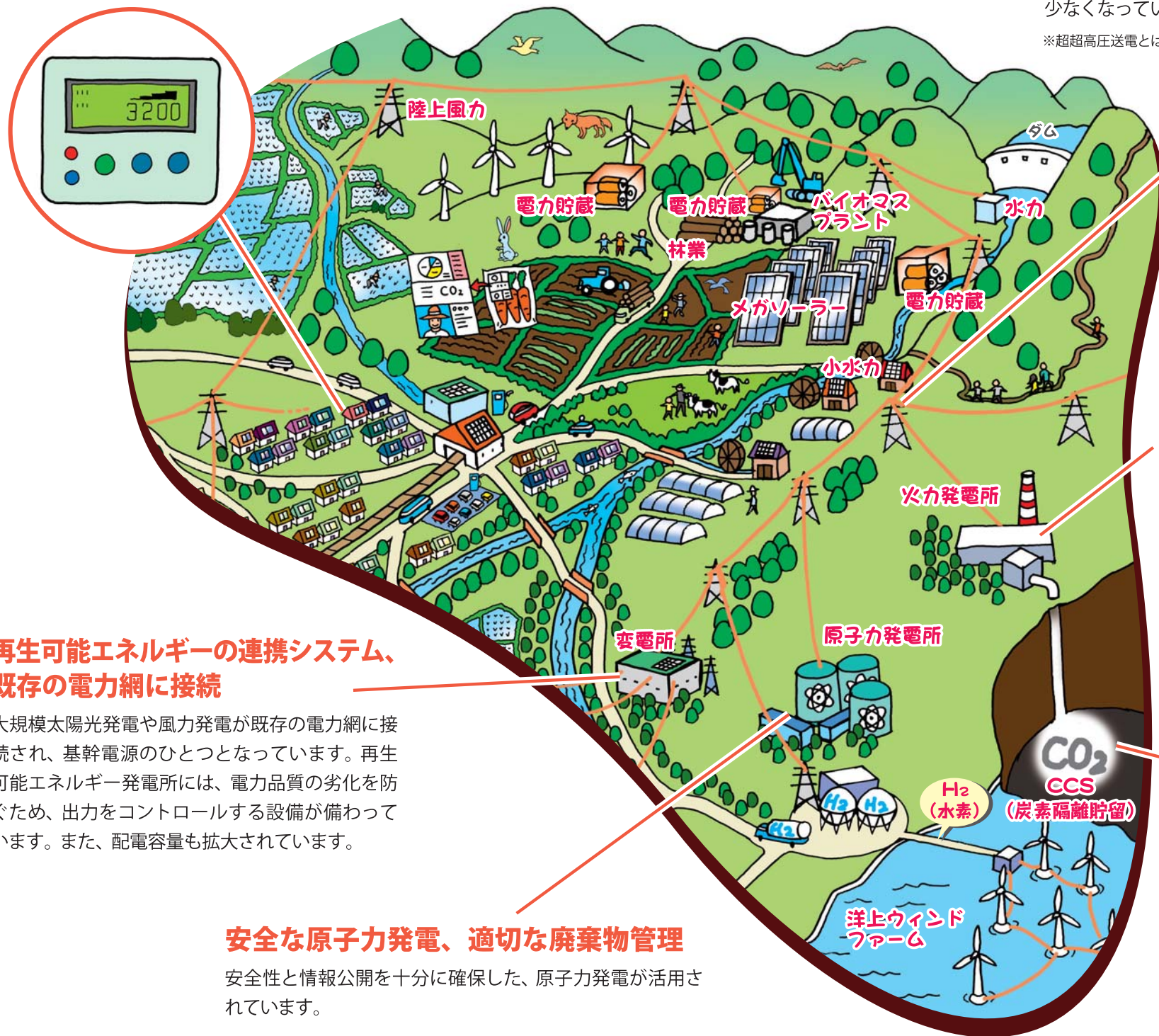
電力買取制度、再生可能エネルギーを伸ばす

太陽、風力など、再生可能エネルギーの利活用を伸ばすために、発電された電気を電力会社が買い取ることを義務付ける制度が導入されています。各家庭やコミュニティ単位での売電契約も可能で、その量はスマートメータなどで「見える」ようになっています。また、機器設置などの初期費用に対して、補助金などの助成制度も行われています。

エネルギーをそのまま運ぶネットワーク、送電ロスが低減

一番大本になる送電網に、超超高压送電が使われています。その結果、送電効率が向上し、ロスが少なくなっています。

※超超高压送電とは、現在の超高压送電のさらに上に行くものです。



再生可能エネルギーの連携システム、既存の電力網に接続

大規模太陽光発電や風力発電が既存の電力網に接続され、基幹電源のひとつとなっています。再生可能エネルギー発電所には、電力品質の劣化を防ぐため、出力をコントロールする設備が備わっています。また、配電容量も拡大されています。

安全な原子力発電、適切な廃棄物管理

安全性と情報公開を十分に確保した、原子力発電が活用されています。

高効率の火力発電、タービン技術の改良

超超臨界タービンの技術が活用され、石炭火力発電でも天然ガス火力発電でも、高効率の発電が行われています。

※超超臨界タービンとは、現在の超臨界タービンのさらに上に行くものです。

CCS(炭素隔離貯留)、CO₂を回収・隔離

火力発電所や工場などから発生したCO₂が回収され、地中や海中に埋めて貯留・隔離されています。大気中へのCO₂放出を抑えています。



みんなで止めよう温暖化

チーム・マイナス6% www.team-6.jp